

現状： 現在会員が 25 名前後です。淡青会会員十数名とその配偶者を併せて 20 名前後、あと会員の友人知人に賛助会員として加わっていただいて合計 25 名です。

活動としては最低毎週 1 回、従って月 5 乃至 6 回のテニスの会を催しております。勿論毎回全員が集まるわけではありません。少なくて 10 名、多いときは 15 名というところでしょうか。

会場は鎌倉の笹田運動場と葉山の上ノ山公園の 2 ヶ所を使用しています。

レベルとしては初級の上から中級といった所でしょうか。しかし中には大学時代運動部で活躍していた人も数名おりますので、そう馬鹿にしたもの



もありません。だからと言ってその連中もいまや寄る年波、恐れることはありません。結論から言って数年テニスをやったことのある人ならどなたでも大歓迎です。目的はあくまで淡青会員相互の親睦です。

これまでの歴史： スタートしたのは 2004 年の 9 月です。このとき集まったのは、ほんの 4 人でした。上の写真の中央にいる 4 人です。4 人と言えばテニスコート 1 面の最少人数です。この 4 人で月 1 回集まってテニスをやり、また手分けして淡青会会員名簿でテニスを趣味欄に書いておられる方へ勧誘のダイレクトメールを出し、淡青会の別の集まり（例えば鎌倉歴史散策）に参加して、そこに集合した人たちにテニスの同好会が出来た事を PR したりしましたが、残念ながらすぐにはなかなか効果が上がりませんでした。

効果が出てきたのは 2006 年からです。この年 2 組のご夫婦を入れて 6 名の方が新しく入りました。4 人に 6 名を足して 10 名、これはテニスにとっては大変大きな事です。何故なら 4 人だけではたった 1 面のコートで同じメンバーで繰り返しているだけですが、10 名となると、コートを入れ替ったり交代で休みを取り会話をしたり、楽しさが数倍違います。それに、はたから見ても同好会のメンバーが集まり仲良く楽しんでいるなという感じが顕著で、大手を振って新しい人を勧誘できます。それやこれやで現在の 20 名以上に到達したのは 2011 年、一昨年でした。

この様に成長できた大きな要因は幾つかあります。

その第一は配偶者の方と一緒に参加が多かった事です。現時点で 6 組、12 名の方がご夫婦での参加です。つまり全メンバーの半分はご夫婦です。これは日本では大変珍しい事ではないでしょうか。私の友人で釣りに夢中の男がいます。私も数回連れ出されましたが、奥さんを連れてきたことなど一度もありません。あとはゴルフと碁会所に入り浸っているようです。私は数年海外で勤務した事がありますが、困った事の一つは何かにつけて夫婦同伴が求められる事でした。異国での社交会話に不慣れな妻と私にとって決して楽なことではありませんでしたが、夫婦は何事も共に行なう、同甘同苦であるべきだという生き方には大いに学ぶべきものがありました。

成長の要因の第二は、本人と配偶者以外の知人/友人を賛助会員として迎え入れたことです。それに該

当する方々は現在 5 名おります。例えば右の写真の三道幹事と一緒に写真に写っている女性は我々のメンバーの親戚の方で、或る著名な大学のテニス選手だった人です。数年前まで（或いは今でも）日本テニス協会の審判員を務めていた方で、逗子葉山辺では多くの女性にテニスを指導し尊敬を集めています。この人が何人かの女性プレーヤーを我々の会に紹介してくれた事が大きく貢献しました。



最後にこの会の成長の最大の要因だと思うのは、メンバーの皆さんお歳に似合わずとてもお元気で、且健康に十分配慮しておられるということです。ひと昔前 70 歳以上の人がテニスというかなり活動的な、しかも瞬間的の反応を求められるスポーツをするなんてちょっと考えられませんでした。最近はかなり増えてきましたが、それはその人達の真面目な健康管理と運動への努力の結果です。左の写真の女性は昨年古希を迎え、お歳なりに腰痛などかかえておられるようですが、こうして元気にボールを打っております。

これから先は？：実はこれから先のことが今後の大きな問題なのです。会員の年齢は 1 人を除いて皆 70 代以上です。私田仲自身 77 歳(S33 法)ですが、最長老は島岡 明さん(S16 法)で、大船から葉山まで良く車でテニスに来られました。一番若い人も 69 歳 nヶ月で、今日あたりすでに 70 歳になっているかも知れません。

思えば鎌倉淡青会の発足は 10 年前でした。そしてそのときは皆さん 60 歳代でした。それから 10 年経ち今や皆 70 歳代になったのです。いまや日本を象徴する高齢化の典型的サンプルです。もっとも奥様方と賛助会員は我々より平均的に若いからです、当面は今のレベルでの活動ができますが、何と言ってもテニスは過激なスポーツですから、このままではいずれ衰退して行かざるをえません。

かくてはならじと若い新しいメンバーを勧誘すべく、淡青会の名簿を開いて勧誘対象者の人選に取り掛かりました。ところが分った事は会員の 7 割は 70 歳以上で、求める 60 歳代は 3 割以下です。その 3 割の中でテニスに関心ある行事と書かれている方は、10 人といません。しかもその人たちの殆どはすでに参加のお誘い等で接触のあった人たちなのです。どうも万策尽きた感じです。

要は高齢化の進むこの淡青会の内部で若い人達を求める事が間違いなのです。この事情は他の同好会の方々も同じだと思います。これからは淡青会そのものへの入会勧誘を外部に積極的に展開し、60 歳代の若い人を多く取り込むしかありません。如何でしょうか皆さん、淡青会全員で新人募集の一大キャンペーンを早急に繰り広げようではありませんか。

執筆者メモ (田仲)：こうして振り返って見て思うのは、私は立派なメンバーの方々に恵まれ、多くを学んだということです。例えば；

- すでに申し上げたとおり、メンバーの方々は日々健康管理に気を使い努力しておられます。とかく怠惰に陥りがちの私が恥ずかしい。
- 多くのメンバーの方々はテニス・スクールに通っておられます。そして着実に技量を上げています。私など、40 歳過ぎての手習いをなんて今更と、考えてもみませんでした。反省する事しきりです。人生最後まで勉強というのは、私のいた会社の社是でした。「学習に飽和点はない」と言ったか。